令和元年度
北方四島交流訪問事業報告書
（国後島・色丹島）

（第２回一般／都道府県民会議主体）

令和元年８月１４日（水）～８月１９日（月）

【国後島】

【色丹島】

北方領土返還要求運動富山県民会議

目　　次

１　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　団長報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

３　副団長報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

４　訪問概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

５　行程実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

６　事業記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

【交流船「えとぴりか」】

１　はじめに

この度、北方領土返還要求運動富山県民会議が主管県として、北方四島交流訪問事業を実施しました。

富山県は、北方領土からの引揚者が北海道に次いで全国二番目に多く、また、かつては歯舞群島の昆布漁場の開拓に力を注ぎ、戦後もさけ・ます遠洋漁業等を通じて関わりが深いことから、北方領土の早期返還を願う県民の思いには、ひときわ強いものがあります。

そのため、富山県から参加した団員は、今回の訪問でロシア人との友好関係をさらに発展させ、外交交渉を後押ししたいという強い願いをもって事業に臨みました。悪天候により、一部日程が変更となりましたが、参加者各位のご協力と主催者である独立行政法人北方領土問題対策協会のご尽力により、滞りなく事業を終えることができましたことに、深く感謝申し上げます。

今回の訪問団は、日本各地の県民会議関係者、国会議員、政府関係者、元島民２世、報道機関、事務局等で構成され、総勢６４名となりました。これらのなかには、団長、副団長をはじめ、過去に何度か島を訪問したことのある方々も含まれています。こうした方々からは、島の社会資本整備が進み、島がロシア化しているという声が多く聞こえました。戦後７０年余りが経過し、ロシア人が島に住んでいる時間が長くなればなるほど、島の返還が難しくなっていることを痛感しました。

平成３０年１１月に行われた日ロ首脳会談では、日ソ共同宣言を基礎とした平和条約交渉を加速化することで合意しましたが、その後の外交交渉では、領土問題解決への具体的な進展は見られていません。このようななかで、今回の報告書が、返還運動に携わる方々が北方領土の現状を知るうえでの参考になれば幸いです。

【千島会館】

【国後島　友好の家】

２　団長報告

北方領土返還要求運動富山県民会議副会長
黒部市長　大野　久芳

先の大戦終了から７４年が経過し、未だに「当たり前のことが当たり前になっていない地域（日本)」がある。歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方領土である。

戦後、歴史的にも国際法上も我が国固有の領土である北方領土が、ロシア（旧ソ連）の施策下に置かれ、今日に至っている状況は誠に残念なことである。

この問題の解決を含む日露間の平和条約締結問題解決のための環境整備を目的として、北方四島在住ロシア人との相互理解を促進するために実施されているのが「北方四島ビザなし交流事業」である。ビザなし交流は、１９９２年に始まり、今年で２８年目になる。私は今回、訪問団（６４名）の団長として参加することとなったが、過去の訪問経験から、特に次の４点に重点を置いたのである。

一．島の様子と変化について
一．島に住むロシア人の心情について
一．交流事業の内容とあり方について
一．訪問団員の反応と印象について

先ず、島の様子と変化について述べる。

国後島は、道路舗装が進み、立派な文化施設やスポーツ施設そして保育園が建ち、その設備と備品が充実していたことに驚かされたのである。また、保育園では、子供達が無邪気に楽しく遊び笑顔で会話している様子に複雑な思いが過ったのは事実である。一方ホームビジット先では、その方が以前、富山県を訪問されたときに私から渡した私自身の名刺を見せて歓迎してくださり、自由に往来できるようになれば良いと話されていたことが印象深く残っている。

残念ながら、天候不順のため、空港施設見学と墓参は叶わなかったのである。国後島での滞在が一日延びたが、食事の内容と対応が以前に比べると数段良くなっている感じがした。

色丹島は穴澗湾に入った途端、その美しい島と湾の姿にしばし見蕩れていたのである。以前に比べても不変な外観に何故か安心した自分が居たのは事実である。

島での活動は２時間余りであったが、斜古丹地区の墓参が実現し、商店が充実し発展している様子を見られただけでも良かった。墓地は整理されていたが、墓碑は次第に朽ちていて、時の流れを感じたのである。しかし、日本人が確実に在住していた証しであり、胸に熱いものが込み上げてきたのである。

島には、稼働直前の水産加工場が新たに完成し、色丹島も姿を変える日が近いと認識せざるを得なかった。

次に、島に住むロシア人の心情についてであるが、以前のような「北方領土」に関する意見交換会がないので、その心情が摑みにくい。ホームビジットや文化・スポーツ交流参加者との会話の感触からすると、島は当然ロシアのものだと思っていて、領土問題には無関心の様子であったが、日本人との交流には積極的な姿勢を見せていた。

次に、交流事業の内容とあり方について提言する。ビザなし交流事業が始まってから２８

年の歴史は、そのあり方を大きく変えた。以前は、ロシア人島民と必ず「北方領土問題」に関する意見交換が実施されていたが、今は文化・スポーツ交流が中心となっている。事業実施を最優先に考えるべきであり、やむを得ないと思う。交流中、機会があれば遠慮なく自分の立場や自分自身の意見を述べたら良いと考える。ビザなし交流事業はあくまで「交流の場」であり「交渉の場」ではないのである。今後も、双方が関心の高く、興味のある日常的総合課題を中心に交流を展開すべきと考えることが持続可能に継がる。

最後に、訪問団員の反応と印象について述べる。参加された全国各地の返還運動関係者、国会議員そして元島民の方々は、訪問の趣旨をよく理解されていて感謝したい。島の実情はかなり把握されたと思うが、貴重な体験を多くの方々に伝えてほしい。これまで、ビザなし交流訪問で北方領土に入った日本人は累計で１３,０００人余り。日本国民約１億２，６７０万人の僅か０．０１％に過ぎないのである。その重みを北方領土問題解決に生かしてくださると確信している。

私自身は返還運動に取り組んでから４３年余り経過するが、私の周辺に元島民がたくさんいる生活環境から今日まで自然と力が入った。私が元島民に求めたのは、戦前・戦中・終戦直後の生き証人として生の言葉で語り続けてもらうことだった。領土問題は日・露政府間交渉で解決すべきこと。元島民は高齢化し多くの方々が他界されたが、運動後継者とともに中心的な役割を果たしてほしいと願っている。同時に全国の各界各層の老若男女を問わず、運動に参画してくださることを切望している。

運動は止めたらおしまいである。今後も、全国津々浦々で粘り強く国民的運動として推進しなければならないと思う。それが日・露政府間交渉を後押しすることになるのであり、そのまとめ役として独立行政法人北方領土問題対策協会の存在と果たす役割は極めて大きいものがある。中心的に活動されている協会に心から敬意を表したい。

そして、今回参加された全ての方々に改めて心から感謝と御礼を申し上げたい。特に、航海安全に格段の配慮をいただいた交流船「えとぴりか」の沢口巨樹船長と船員の皆様には敬意を表するとともに、益々のご活躍とご健勝・ご多幸を心からお祈りし、所感とする。

（大野団長と色丹島代表者）

【色丹島 穴澗湾の港にて】

日程変更のため、色丹島代表者との面会の時間は取れなかったが、港に島の代表者が出迎えに来ており、言葉を交わすことができた。

記念品の交換も行い、訪問団からは伝統工芸品である富山県の鋳物製品を贈呈した。

３　副団長報告

元島民２世　濵松　禎高
（北方領土問題対策協会富山県推進委員
北方領土返還要求運動富山県民会議理事）

平成２５年７月に北方四島ビザなし交流に参加して以来、６年ぶり２回目の訪問参加となる。前回と同様、富山県が主管県となっての国後島、色丹島の訪問である。今回も団長は大野黒部市長で、副団長は私が務めることとなった。大変な重責である。５月の第１回訪問時の戦争発言問題がこの訪問にどのように影響してくるのか、今回、各方面から注目される訪問となるに違いないと気を引き締め臨んだ交流事業であった。

そして、国後島・色丹島の社会環境やインフラ整備状況、住民の生活など６年間の変化を確認することも目的の１つであった。

この訪問は、富山県からは県民会議関係者、元島民２世や地元マスコミ関係者を含め２０名で、その他、国会議員、各府県民会議より返還運動関係者、元島民２世、国からは外務省、内閣府、農林水産省の担当者、マスコミ関係者など合せて６４名が参加した。

台風１０号が接近していることから訪問スケジュールにどのように影響するかは、今後の気象情報を注視していくことになるだろうと思いつつ、訪問の準備を行った。

熱帯低気圧による荒天で色丹島のスケジュールがほとんど無くなり、住民交流を行うことが出来ず大変残念ではあるが、訪問団員が無事怪我もなく帰還できたことを心から感謝したい。

前回の交流訪問の違いについては、まず、古釜布港における手荷物検査が行われるようになったこと、そして前回まであったパンと塩の歓迎が行われなくなったことはロシアの管理体制の変化なのか、歓迎されない事例があったのかと想像してしまう。それと、古釜布港の海の汚染と色丹島のごみ問題である。どちらも早急に対処する必要があるのではないかと思う。根室へ帰る船にロシア側のごみプロジェクトの方が乗船していて、根室での処理場の視察などをされたとニュースで放送されていた。今年は観光とごみ処理プロジェクトが始動することになったことから日露共同経済活動の大いなる進展があることを期待したい。

国後島内で目に付いたのは若い人が増えて、子供をこども園に送っていく姿が多くなっていることである。地区長代行の話では、南クリルの人口を４，０００人増やして１５，０００人とする計画であり、それにより住宅の新築を増やしていく予定と言っていた。

こども園や学校などの新設、住宅・アパートの新築、スポーツ施設など島民の健康増進に寄与する場所の増設、道路の舗装箇所の延伸など社会インフラの整備が進んでいる。島の住民の平均給料もロシア本土より高く、僻地手当で２年間、島にいればロシアの国内どこへでも旅行できる制度などもあるという特典を与え、移住政策を強力に進めていこうとする姿勢が特に感じられた。

今年から運用できるようになった「えとぴりか」内の Wi-Fi については、交流事業中の情報発信に大いに役立っていると思う。ただ、団員からのアクセスが多いと繋がりにくいのと直ぐにアクセスが途切れてしまい、何回も同じ操作を繰り返さなければならない不便さは、残念で改良の必要性を感じた。

訪問場所については、新設された保育園・学校やスポーツ施設などロシアが自慢したい場所に限定されている。ロシア側との協議・了解が必要条件ではあり、相手のある事柄ではあるが、地熱発電所、水道施設、温泉施設、病院施設や住宅・道路新設現場などの視察交渉をお願いしたい。

今回の訪問は、天候にはあらがえず古釜布墓地墓参や国後島の玄関口となっているメンデレーエフ空港、今後、観光の目玉となるであろうローソク岩周辺の視察が出来なかったことは大変残念であった。ビザなし交流事業については、賛否いろいろな意見もあるが、今後もビザなし交流を継続して島に住むロシア人と相互理解を図り、平和的に交渉による北方領土問題の解決を続けていかなければならないと思う。

この訪問を通して見聞きしたことを報告会や語り部などで、地域住民や学生など多くの人に島の現状を伝えて北方領土返還の思いを訴え続けていく所存である。

今回のビザなし訪問にご尽力いただいた関係各位にお礼と感謝を申し上げます。

【国後島の様子】（上：新しい建物、下：「行政府」前に整備された広場）

【色丹島の様子】

４　訪問概要

１）日　程

令和元年８月１４日（水）～８月１９日（月）

２）目　的

北方領土（今回は国後島・色丹島）を訪問し、島のロシア人住民との相互理解の増進を図ることにより、もって北方領土問題の解決に寄与することを目的として実施する。

３）団　員

団　長　大野 久芳（富山県民会議副会長、黒部市長）

副団長　濵松 禎高（元島民２世、会社員）

他６２名

＜団員構成＞

県民会議関係者３２名（１５府県）、国会議員４名、元島民２世等５名、政府同行者５名、医師１名、学識経験者等２名、報道関係者４名、通訳６名、事務局５名

４）主　催

独立行政法人北方領土問題対策協会

５）主　管

北方領土返還要求運動富山県民会議

６）概　要

都道府県民会議主体の今回の訪問は、北方領土返還要求運動富山県民会議が主管県を務め、１５府県の県民会議関係者ら６４名が参加した。

国後島では、島代表者との面会、島内視察、古釜布墓地墓参、住民交流会、ホームビジット、夕食交流会を実施した。視察先には、当初「メンデレーエフ」空港と「ロウソク岩」も組み込まれていたが、悪天候のため視察できなかった。また、古釜布墓地では、同じく悪天候のため車内からの墓参となった。

当初の日程では、８月１７日に国後島を出港し、１８日の朝に色丹島に上陸する予定だったが、波の状態がよくないことから国後島の出港が１８日となり、色丹島の上陸時間は２時間程度に短縮された。色丹島で予定されていた島代表者との面会、水産加工場と学校の視察、住民交流会、夕食交流会が実施できなかったのは残念であったが、短い時間でも島に上陸し、島の現状を目にすることができたのは、団員にとって貴重な体験となった。

５　行程実績

８月１４日（水）

１６：１５～１９：２５　結団式・事前研修会
（北海道立北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」）

〔結団式〕

主催者挨拶　　独立行政法人北方領土問題対策協会専務理事　古矢 一郎　氏

来賓挨拶　　根室市長　石垣 雅敏　氏

（来賓出席：北海道北方領土対策根室地域本部本部長 大内 隆寛 氏）

団長挨拶　　訪問団長　大野 久芳

〔事前研修会〕

北方四島交流について　政府同行者（内閣府・外務省）

オリエンテーション　　北対協事務局

講演「最近の日露関係と北方領土問題」

東海大学海洋学部教授・静岡キャンパス長（学長補佐）　山田 吉彦 氏

住民交流会の進め方　　北方領土返還要求運動富山県民会議

８月１５日（木）　天気：曇り・雨

９：０５　出発式

９：１５　根室港（琴平町岸壁）出港

１０：００～１０：２０　安全説明、ロシア語講座（伊川通訳）

１０：１２　通過点（ N43° 28′ / E145° 46′ ）

１１：００　昼食

１２：３０　国後島古釜布湾着

１３：００～１４：３０　入域手続

１５：００～１５：５０　国後島上陸・友好の家にチェックイン

１６：０５～１６：３５　国後島代表者面会（文化会館）
（アンドレーエヴァ地区長代行）

１６：００～１７：００　夕食（「友好の家」）

１７：４０～１８：２０　北方領土語り部講話　本田 幹子　氏（「友好の家」）
（「友好の家」泊）

８月１６日（金）　国後島１日目　天気：雨

６：００～　７：００　朝食（「友好の家」）

（Ａグループ）

７：２０～　８：２０　「ソルヌィシコ」こども園視察（エレーナベードロバ園長）

８：２５～　９：１５　スポーツ健康施設「アファリナ」視察
（セルゲイモナストィリスキーディレクター）

９：３０～１０：１０　ロシア正教会「聖三位一体教会」視察（ブラーギン神父）

１０：２０～１０：２５　古釜布墓地墓参（雨のため車内から）

（Ｂグループ）
７：１５～　８：１５　スポーツ健康施設「アファリナ」視察
８：２０～　９：１５　ロシア正教会「聖三位一体教会」視察
９：４０～１０：１５　「ソルヌィシコ」こども園視察
１０：２５～１１：３０　古釜布墓地墓参（雨のため車内から）
（ＡＢグループ合流）
１１：００～１２：００　昼食（「友好の家」）
１２：０５～１２：３０　住民交流会準備
１２：３０～１５：３０　住民交流会（文化会館）
団長挨拶、富山県紹介映像上映、富山県受入事業の様子の紹介、獅子舞披露・写真撮影、万華鏡作り、スポーツ交流、レクリエーション（障害物リレー）
１６：０５～１６：４０　商店視察
１７：００～１８：００　夕食（「友好の家」）
（「友好の家」泊）

８月１７日（土）　国後島２日目　天気：雨
６：００～　７：００　朝食（「友好の家」）
８：１５～　９：１５　郷土博物館視察
（ザジラコ館長、チャフキナ館員、スクワチーツィナ前館長）
９：１５～１０：１５　中央図書館視察（ヴィクトリヤ・ソジノワ館長）
１０：３０～１１：００　昼食（「友好の家」）
１１：００～１３：５０　ホームビジット
１４：５０～１６：１５　夕食交流会（「友好の家」）
（アンドレーエヴァ地区長代行、キセリョフ編集長　他）
（「友好の家」泊）

８月１８日（日）　色丹島　天気：曇り・雨
７：００～　７：４０　朝食（「友好の家」）
８：３０～　９：５０　港へ移動、帰船
９：５０　色丹島へ向け出港
１０：３０　昼食
１５：１０　色丹島（穴澗）到着
１５：３０～１６：００　斜古丹墓地墓参
１６：１５～１６：５０　商店視察
１６：５０～１７：００　港へ移動・帰船
１７：１５　国後島に向け出港
１８：００　夕食
２１：３０　国後島（古釜布沖）着
（船内泊）

８月１９日（月）

	５：００	朝食
７：００～	８：３０	出域手続
	８：３０	根室へ向け出航
	８：４５	解団式
	１０：３０	昼食
	１０：５０	通過点（ N43° 28′ / E145° 46′ ）
	１２：００	根室港帰港、事務手続、下船
	１２：５０	解散（千島会館）
１２：５０～	１３：２０	代表者記者会見（千島会館）

６　事業記録

【１日目】８月１４日（水）

１６：１５～１９：２５　結団式・事前研修会
（北海道立北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」）
〔結団式〕
主催者挨拶　独立行政法人北方領土問題対策協会専務理事　古矢 一郎　氏
来賓挨拶　根室市長　石垣 雅敏　氏
（来賓出席：北海道北方領土対策根室地域本部本部長　大内 隆寛　氏）
団長挨拶　訪問団長　大野 久芳
〔事前研修会〕
北方四島交流について　政府同行者（内閣府・外務省）
オリエンテーション　北対協事務局
講演「最近の日露関係と北方領土問題」
東海大学海洋学部教授・静岡キャンパス長（学長補佐）　山田 吉彦　氏
住民交流会の進め方　北方領土返還要求運動富山県民会議

１５：４５に根室グランドホテルに隣接する千島会館へ集合し、バスで北海道立北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」に移動し、結団式と事前研修会を行った。

〇講演「最近の日露関係と北方領土問題」要旨

【山田 吉彦　教授】

・極東ロシアのウラジオストクに物資を運び、ウラジオストクから物資を運び出すには、日本海を使わなければならず、日本海に入るためには、対馬海峡、津軽海峡、宗谷海峡のどこかを通過しなければならない。
・ロシアにとって、特にプーチン大統領にとって、極東開発はひとつの中心的課題であり、そのためには日本との協力は不可欠である。そのため、プーチン大統領は安倍総理と何度も会談しているが、ポイントとなるのは、日本人の心を離してはならないということである。日露関係において、日本人は北方領土問題を忘れることができないため、北方領土問題をちらつかせ、三歩進んで二歩下がるということを続けていくのが、ロシアにとって一番都合がよい。
・北朝鮮の動きに対し、アメリカが日本海に戦略的原子力潜水艦を派遣するなど、北方領土周辺海域は非常に緊迫している。結論からいうと、北方領土問題で一番難しいのは、安全保障上、ロシアが一年を通して日本海に潜水艦を送り込めるのが、国後島と択捉島の間にある国後水道だけだということである。
・安全保障の問題から、北方領土問題について国家が身動きをとれないなかで、重要となるのが共同経済活動である。共同経済活動が動き出せば、島はジャパンマネーで埋められる。島が日本化し、日本とともに暮らしていくしかないとロシア側に思わせることが重要となる。

○住民交流会の進め方

富山県民会議より、住民交流会の実施概要と各プログラムの説明を行ったほか、他府県の団員に、万華鏡作りとスポーツ交流への協力を依頼した。

実施概要説明・協力依頼：富山県民会議　鍋島
獅子舞披露説明：廣澤 正彦　氏（東狐獅子舞保存会）
万華鏡作り説明：光井 威善　氏（ガラス作家）

[住民交流会プログラム]

	内　　容	場　所	所要時間
①　団長挨拶	大野団長による挨拶	文化ホール ステージ	１０分
②　富山県の紹介	映像上映		５分
③　北方四島交流受入事業を振り返って	H30 年度の富山県での受入事業の様子を紹介		１０分
④　獅子舞披露	東狐の獅子舞披露 【演目】起し舞、テンマリ		３０分
⑤　万華鏡作り	富山のガラスを使った万華鏡作り	エントランスホール	７０分
⑥　スポーツ交流 （国後島でのみ実施）	誰もが楽しるスポーツの体験 【種目】フライングディスク、ソフトダーツ、釣りっこ	体育館	４０分

【獅子舞披露説明】（左端が廣澤氏）

【万華鏡作り説明】（光井氏）

○訪問日程について

事前研修会の最後に、台風１０号の影響により、１７日も国後島の「友好の家」泊となる可能性があるため、あらかじめ３泊分の荷造りをしておいてほしいと北対協事務局より連絡があった。

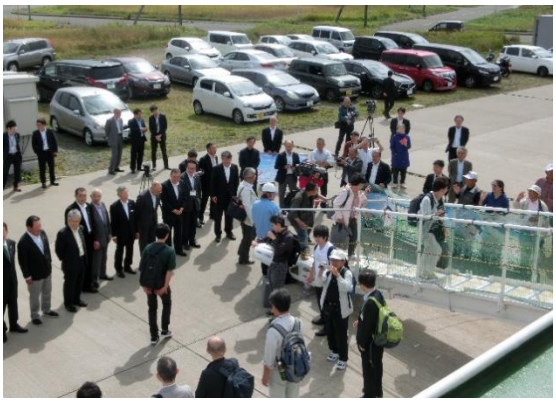
【２日目】８月１５日（木）天気：曇り・雨

９：０５	出発式
９：１５	根室港（琴平町岸壁）出港

８：３０に千島会館に集合し、バスで根室港に移動した。

出発式では、大野団長による挨拶のあと、団員名簿順に交流船「えとぴりか」に乗船し、「ビザなしサポーターズたんぽぽ」をはじめ、港に集まった多くの関係者に見送られながら出港した。

【大野団長挨拶】



【乗船の様子】

【「ビザなしサポーターズたんぽぽ」の皆さん】

１０：００～１０：２０	安全説明、ロシア語講座
１０：１２	通過点（ N43° 28′ / E145° 46′ ）
１１：００	昼食
１２：３０	国後島古釜布湾着
１３：００～１４：３０	入域手続
１５：００～１５：５０	国後島上陸、友好の家にチェックイン

○ロシア語講座　通訳　伊川 久美子　氏

食堂に団員が集まり、船員から船の安全説明を受けたあと、テキスト「四島交流会話集」に基づき、自己紹介や挨拶など簡単なロシア語の勉強を行った。

○国後島上陸

国後島には、「えとぴりか」が直接接岸できないため、「えとぴりか」から「はしけ（小型船舶）」に移乗し上陸した。「はしけ」には団員全員が一度に乗ることができないため、上陸は２回に分けて行われた。

上陸後、住民交流会に用いる道具など、荷物の一部をロシア側に検められた。このようなことは、昨年度の第２回一般訪問ではなかったことである。

【上陸直後の様子】

【車に分乗し、友好の家に移動】
※島内での移動はすべて車となり、徒歩で自由に動くことはできない。

１６：０５～１６：３５	国後島代表者面会
１６：００～１７：００	夕食
１７：４０～１８：２０	北方領土語り部講話

○国後島代表者面会

友好の家から文化会館に移動し、アンドレーエヴァ地区長代行と面会した。記念品の交換も行い、訪問団からは、団員でガラス作家の光井氏の作品である花瓶を贈呈した。

【面会の様子】

【記念品交換】
（大野団長とアンドレーエヴァ地区長代行）

＜アンドレーエヴァ地区長代行挨拶（要旨）＞
・南クリル地区の住民の数は１１，８７０名になる。２０１８年に死亡率より出生率が高くなり、人口が５０名増加した。平均給与は約７０，０００ルーブル、年金の平均額は２４，８００ルーブルになる。社会保障費として約２００万ルーブルを使っており、公共住宅も用意している。
・基幹産業は漁業と水産加工業で、この島にはユジノクリリスキー漁業コンビナートとデルタ社という会社がある。
・南クリル地区の健康管理は地区病院が担っており、病院は一昼夜に１４０名の患者を診ることができる。ロシア連邦内の他の地域から医者を呼び、診てもらうこともある。なお、昨年まで、２８０名強が日本の病院で検査、治療を受けたが、この場をお借りして日本の外務省に感謝申し上げたい。
・学校は１２校あり、学生の数は約１，０９０名、学校の先生の給料は最低でも１１万７，０００ルーブルになる。
・この２年で２０ヶ所のスポーツ施設が建設され、その中には色丹島の新しいスポーツ施設と国後島のプールも含まれている。
・昨年、ロシアの代表団が富山県を訪問した。ホームビジットでは、かつて千島列島に暮らしていた方々の子孫のお宅にお邪魔したが、敬意をもって接していただき、心からのおもてなしを受けた。
※訪問時の為替レートは１ルーブル＝１．６４円

〇北方領土語り部講話
　夕食のあと、食堂で本田 幹子 氏（元島民２世）による北方領土語り部講話が行われた。

＜語り部講話（要旨）＞
・母が志発島の出身。志発島は歯舞群島の最大の島で、２，２４９人が住んでいた。島の東側と西側に集落が分かれており、学校やお寺、郵便局などがそれぞれの集落にあった。
・平成１１年に初めて行われた自由訪問に参加し、志発島を訪れた。島には、所々に鉄の釜のようなものが落ちていて、それは島に住んでいた日本人が昆布を煮て、ヨウ素を作るために使っていたものだった。一番びっくりしたのは、当時の日本人が植えた水仙が毎年同じ場所に咲き続け、水仙の群落を探すと家のあった場所が分かったこと。

【本田 幹子　氏】

・終戦後、ソ連軍が侵攻してきたときに、母たちは漁師であった祖父の船で逃げようと準備をしていたが、一緒に連れて行ってくれという人が増えたため、大きな船を持っている人に声をかけ、その船に乗れるだけの人を乗せて逃げた。大きな船のエンジンをかけると、音でソ連軍にばれてしまうので、祖父の小さな船を大きな船にロープでつなぎ、小さな船の櫓を漕いで、夜にそうっと沖まで出て、ここまで来たら大丈夫というところで大きな船のエンジンをかけて逃げてきた。
・２０年ほど前にビザなし訪問で国後島を訪れたとき、船から降りたところで民族衣装を着

た女の人がパンと塩を持って歓迎してくれた。一方で、根室にロシア人が来るときは、港にスーツを来た役所の人しかおらず、歓迎している感じがしなかった。そこで、訪問事業を通じて仲良くなった根室出身の人たちと、根室港にロシア人を出迎えに行くことにした。港での出迎えは今も続けていて、「ビザなしサポーターズたんぽぽ」として紹介していただけるようになった。

・私は返還運動に参加しているが、親しくなったロシア人とは領土問題のことは話さない。領土問題は国に任せようと思っている。ただ、日本人とロシア人がお互いを理解し信頼しあい、もし島を日本に返すことになったら、島に住んでいるロシア人がどう思うかを私たちが考えれば、ロシア人も元島民のことを考えてくれ、お互いの立場を越えることができるのではないかと思い、ロシア人との交流を続けている。

・領土問題が長引くよりは二島でもいいから返してもらった方がいいと、四島を諦めるようなことになれば、日本は粘れば領土を手放すと思われ、尖閣諸島や竹島も危なくなる。四島の返還は譲れないという思いで頑張っているので、皆さんにもお手伝いをお願いしたい。

〇住民交流会打合せ

北方領土語り部講話終了後に、富山県団員、他府県の団員、通訳が食堂に集まり、翌日に実施する住民交流会の打合せを行った。

協力いただいた他府県団員（敬称略）

万華鏡作り	伊勢 健一（宮城県）	林 健一（大阪府）	大原 有加（和歌山県）
	山中 真（大分県）		
スポーツ交流	本田 幹子（語り部）	伊勢 健一（宮城県）	藤森 靖夫（長野県）
	上木 広夢（京都府）	田野 照子（京都府）	水越 稔子（京都府）
	井上佐智子（広島県）	佐藤 浩子（広島県）	福本アヤ子（広島県）

【打合せの様子】

【３日目】８月１６日（金）　国後島１日目　天気：雨

６：００～　７：００	朝食
（Ａグループ）	
７：２０～　８：２０	「ソルヌィシコ」こども園視察
８：２５～　９：１５	スポーツ健康施設「アファリナ」視察
９：３０～１０：１０	ロシア正教会「聖三位一体教会」視察
１０：２０～１０：２５	古釜布墓地墓参
（Ｂグループ）	
７：１５～　８：１５	スポーツ健康施設「アファリナ」視察
８：２０～　９：１５	ロシア正教会「聖三位一体教会」視察
９：４０～１０：１５	「ソルヌィシコ」こども園視察
１０：２５～１１：３０	古釜布墓地墓参

朝食後、２班に分かれ島内を視察した。（視察先は同じ）

○「ソルヌィシコ」こども園視察

エレーナベードロバ園長に園内を案内してもらった。

＜園長による説明（要旨）＞

・２０１８年４月４日に開園。ここは南クリル地区の公立のこども園になる。

・１歳半から７歳までの子どもを受入れており、子どもたちは年齢別に６つのグループに分かれている。１グループは２０～２５名。

・保育時間は８時から１８時３０分までで、延長保育はない。子どもたちは園で３食（朝食、昼食、軽い夕食）をとる。スクールバスはなく、親が送迎する。

・土日は休み。

・保育料は１月あたり３，４２０ルーブル。

・現在１４０名の子どもを受入れており、保育士は１９名。保育士を含め、全部で５４名の職員がいる。

・子どもの受入れは登録制で、空きが出たら登録順に受入れる。

・建物は２階建で、１階にプール（３ｍ×６ｍ、深さ８０ｃｍ）があり、３歳から水泳の授業を行う。２階には、体育室、音楽室のほか、外の運動場で遊べないときのための「緑の部屋」がある。

【「ソルヌィシコ」こども園】
（左上：外観、右上：屋外運動場、左下：プール、右下：子どもたちの様子）

○スポーツ健康施設「アファリナ」視察
　セルゲイモナストィリスキーディレクターに施設内を案内してもらった。

＜ディレクターによる説明（要旨）＞
・当施設は２０１７年２月１日に、サハリン州から南クリル地区に所有権が移譲され、開業した。総建設費は２億５，３００万ルーブル。
・２階建で、１階には各事務所と技術設備、２階にプールとトレーニング室がある。延床面積は１，９２３㎡で、このうちプールは４００㎡を占める。
・週６日間営業し、月曜日は閉館。営業時間は、火～金曜日は７時から１１時までと１４時から２２時まで。土日は１０時から２２時までで、昼の休憩時間はない。
・利用料金は、午前は大人１５０ルーブル、子ども１００ルーブル。午後は大人２００ルーブル、子ども１５０ルーブル。公共施設なので非常に安い料金設定となっており、これが民間の健康施設なら１０倍くらいする。
・自治体からの予算のほか、利用料金、グッズ販売による収入、入居している民間の銀行からの家賃収入がある。収入は建設にかかった費用の補填や施設の維持費に充てている。
・施設の２階にビューティーサロンのようなものを一時開設していたが、オイルマッサージに使用するオイルが床にこぼれ、滑って転ぶ人がいると危ないということで閉鎖になった。ＶＲでアイスホッケーやテニスを楽しめるスペースもあったが、投資額のわりに利用率が低く閉鎖となった。

・従業員は２７名。常勤は２５名で、残りの２名は夜勤の者と電気設備管理者。
・年間利用者数の統計は取っていないが、利用回数は２３，０００回。利用者数はおそらく８００名くらいになるのではないか。
・水泳教室に通っている子どもの数は１００名。７歳以上の子どもを対象に、週３回レッスンを行っている。
・島の住民は水泳はあまり得意ではなく、水泳のトレーナーは本土から来ている。スポーツトレーナーの約８割は本土から来てもらった人。
・本土から専門職の人に来てもらうのは、給料や住居の手配などの問題があり非常に難しい。そのため、若手の専門職には、５年間島で働くことを条件に赴任手当として１００万ルーブルを支給することになっている。また、自治体で新しい住居の建設を行っているが、まだまだ数が足りていない。

【スポーツ健康施設「アファリナ」】（左：外観、右：トレーニング室）

○ロシア正教会「聖三位一体教会」視察
　ブラーギン神父の案内により、洗礼室をはじめ教会内を見学した。ロシア正教の教会では、女性は髪を隠し、男性は帽子を脱ぐのが礼儀とのことから、女性はスカーフなどで髪を隠しての見学となった。

【ロシア正教会「聖三位一体教会」】（左：教会内部の様子、右：外観）

○古釜布墓地墓参
　雨が強く、車から降りることができなかったため、車内からの墓参となった。

（ＡＢグループ合流）
１１：００～１２：００　昼食
１２：０５～１２：３０　住民交流会準備
１２：３０～１５：３０　住民交流会
１６：０５～１６：４０　商店視察
１７：００～１８：００　夕食

○住民交流会
昼食後、文化会館で住民交流会を行った。

【文化会館】
（文化ホールのほか、体育館、中央図書館もこの建物内にある）

＜団長挨拶、富山県紹介映像上映、富山県受入事業の様子の紹介＞
富山県は昨年度、北方四島交流受入事業でロシア人訪問団５９名を受入れていることから、そのときの様子を振り返る時間を設けたところ、会場に来ていた２名の島民から、富山県を訪問したときの思い出や感想を聞くことができた。そのうちの１名であるイリーナさんは、富山県での思い出を描いた３枚の水彩画を持参しており、国民同士の対話により、友好が深まっていることが実感できた。

【文化ホールに集まった島民】

【挨拶する大野団長】

【受入事業の様子の紹介】
（富山県民会議から説明）

【受入事業の思い出や感想を述べる島民】
（左：グドレフスカヤさん、右：イリーナさん）

【イリーナさんが描いた水彩画】

＜獅子舞披露・写真撮影＞

富山県には多くの獅子舞が伝承されており、県内の各地域で様々な獅子舞が舞われているが、その中から入善町の東狐（とっこ）地区に伝わる「東狐の獅子舞」を披露した。獅子に頭を噛まれると無病息災になると伝えられていると説明したところ、写真撮影では、多くの島民がステージに集まり、獅子頭に触れたり、頭を噛まれるポーズを取ったり、楽しみながら写真を撮っていた。

＜万華鏡作り＞

富山市は、近年ガラス工芸・芸術の振興に力を入れており、市内にある富山ガラス工房では、ガラス制作の魅力を伝えるための体験メニューとして、ガラス万華鏡作りを行っている。万華鏡はロシアにおいても、伝統的なおもちゃであるとのことから、このガラス万華鏡作りを島で行うことで、島民との交流を図ることとした。

万華鏡作りは、文化会館のエントランスホールにテーブルとイスを設置し、５つのグループに分かれて行った。万華鏡の筒に「越中和紙」を貼り付け、万華鏡がきれいな模様を描くよう、色や大きさを考えながらガラスの粒を選ぶという細かな作業が続いたが、富山県団員や事前に協力を依頼した他府県の団員が、各テーブルで島民の作業を補助し、参加した島民全員が万華鏡を作り上げることができた。

＜スポーツ交流、レクリエーション＞

文化会館内の体育館に場所を移し、スポーツ交流を行った。誰でもどこでも気軽に楽しめることを目的としたスポーツを実施したため、島民と日本人が言葉の壁を気にすることなく楽しむことができた。最後には、島側の提案で予定になかったレクリエーション（障害物リレー）も行い、信頼がより深まった形で住民交流会を終えることができた。

【獅子舞披露】

【写真撮影の様子】

【万華鏡作り】

（左上：会場の様子、右上：光井氏から作り方の説明、下：万華鏡を作る島民）

【スポーツ交流、レクリエーション】

（左上：フライングディスク、右上：釣りっこ、左下：ソフトダーツ、右下：障害物リレー）

○商店視察

住民交流会を終え、一旦友好の家に戻ったのち、商店の視察を行った。

複数の商店が集まり、それぞれ食品を扱う店、電化製品を扱う店などに分かれていた。

【商店の様子】

【４日目】８月１７日（土）　国後島２日目　天気：雨

６：００～　７：００	朝食
８：１５～　９：１５	郷土博物館視察
９：１５～１０：１５	中央図書館視察
１０：３０～１１：００	昼食
１１：００～１３：５０	ホームビジット
１４：５０～１６：１５	夕食交流会

○郷土博物館視察

ザジラコ館長の挨拶のあと、チャフキナ館員に前半の展示を、スクワチーツィナ前館長に後半の展示を解説してもらった。

【郷土博物館】（文化会館の隣に建つ）

館内には、まず自然に関する展示があり、つぎに歴史に関する展示があった。歴史の展示では、１９４５年に北方四島がロシア領になったことが図で示されており、それ以前に日本人が島で暮らしていた時代は、「日本時代」という区分で紹介されていた。元島民から提供を受けた写真や島から出土した遺物が展示されており、来館者は非常に興味を持ってこの展示を見ているとのことであった。

【「日本時代」の展示の様子】

○中央図書館視察

ヴィクトリヤ・ソジノワ館長に館内を案内してもらった。

館長からは、５００名の子どもたちが図書館を利用しており、日本人の生活に興味を持ち、日本の昔話を好んで読んでいると説明があった。また、蔵書を増やすときは、日本に関する書籍を必ず購入するようにしているとのことで、遠藤周作や村上春樹の作品などが展示されていた。

館内には、日本語を学習するために島民数名がたまたま集まっており、交流を図ることができた。

【日本に関する書籍の展示】

【島民との交流の様子】

○ホームビジット

団員が３～４名のグループに分かれ、島民の家庭を訪問した。受入家庭は１６家庭で、各家庭が車を出し、友好の家まで団員を送迎してくれた。通訳は各家庭に３０分程度しか滞在しなかったが、スマートフォンの翻訳アプリを使うことで、複雑な内容でなければ、ある程度意思の疎通を図ることができた。

○夕食交流会

アンドレーエヴァ地区長代行、キセリョフ編集長（現在は地元新聞の編集長を務めているが、１９９２年にビザなし訪問が始まったとき、「行政府」で計画立案を担当）などを迎え、友好の家で夕食交流会を開催した。

交流会の終わりには、島側がロシア民謡「カチューシャ」、訪問団側が「北国の春」を披露し、友好を深めた。

当初の日程では、夕食交流会のあと「えとぴりか」に戻り、色丹島に向かう予定であったが、波の状態がよくないため、そのまま友好の家に宿泊することとなった。

【挨拶する濵松副団長（左）】

【歓談の様子】（左端がキセリョフ編集長）

【５日目】８月１８日（日）　色丹島　天気：曇り・雨

７：００～	７：４０	朝食
８：３０～	９：５０	港へ移動、帰船
	９：５０	色丹島へ向け出港
	１０：３０	昼食
	１５：１０	色丹島（穴澗）到着
１５：３０～	１６：００	斜古丹墓地墓参
１６：１５～	１６：５０	商店視察
１６：５０～	１７：００	港へ移動・帰船
	１７：１５	国後島に向け出港
	１８：００	夕食
	２１：３０	国後島（古釜布沖）着

色丹島の滞在時間は２時間程度しかなく、色丹島での住民交流会等は中止となった。

船を降りると、目の前にギドロストロイ社の水産加工場があり、工場周辺の道路は舗装されていたが、斜古丹に向かう道路は未舗装だった。

【ギドロストロイ社の水産加工場】

○斜古丹墓地墓参

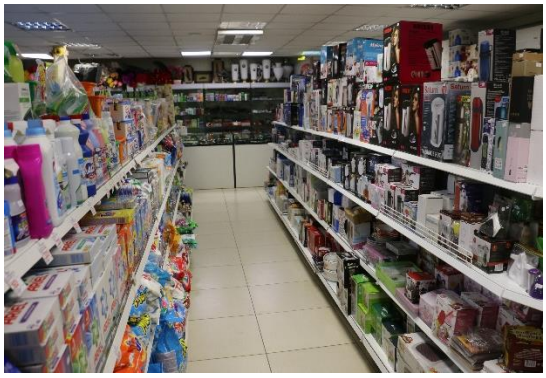
墓地内はきれいに草が刈られていた。団員各々が、北対協事務局が準備した線香をあげてお参りした。

【斜古丹墓地の様子】

【お参りする大野団長】

○商店視察

国後島より商店の数は少なく、１店舗に食品、日用品、衣類等が揃っていた。



【商店の様子】

○団員同士の交流

夕食のあと、食堂で富山県民会議主催の団員同士の交流会と、色丹島で使用する予定だった万華鏡の材料を使って万華鏡作りを行ったところ、島での感想を述べあうなど、団員同士の交流を大いに深めることができた。

【団員交流の様子】

【６日目】８月１９日（月）

	５：００	朝食
７：００～	８：３０	出域手続
	８：３０	根室へ向け出航
	８：４５	解団式
	１０：３０	昼食
	１０：５０	通過点（ N43° 28′ / E145° 46′ ）

○色丹島について

色丹島を十分に視察することができなかったため、解団式の前に、色丹島について山田教授に説明していただいた。

＜山田教授の説明（要旨）＞

・色丹島の特徴は自然が豊かなことと、国境警備庁の町であること。

・現在、穴澗と斜古丹に合わせて２，９００人ほどのロシア人が住んでいるが、そのうち約１，０００人が国境警備隊とその家族。かつては１，０３８人、２０６世帯の日本人が５～６ヶ所の村落に分かれて暮らしていた。

・色丹島には３００体くらいの遺骨があるはずだが、発見された遺骨は少ない。穴澗にも日本人の墓地があるが、国境警備庁の管理地の中にあるため、立ち入ることができない。

・色丹島には舗装道路がない。舗装されているのは、ギドロストロイが建てた水産加工場のある穴澗湾の港の周辺だけ。穴澗と斜古丹を結ぶ道路の舗装計画はかなり以前からあるが、まだ工事は着手されていない。道路は見たとおり、ローラーで踏み固めている状態で、晴れているときは砂ぼこりがひどい。

【未舗装の道路】

・ギドロストロイの水産加工場では、アメリカへの輸出用にサケやマスをフィレに加工している。工場の規模は、私が最初に色丹島を訪れたときと比べると、１０倍くらいになっている。ただし、人口増には寄与しておらず、工場で働く人の多くは季節労働者。８月半ばから１１月まで働いて帰っていく。季節労働者は、かつては学生アルバイトが多かったが、昨今はシベリア地域の街、もしくはカザフスタンや旧ソ連邦の国々からやってきている。

・色丹島の住民は、１９９６～１９９７年に、一度日本人になる覚悟をした。何もしてくれないロシアよりは、日本とともに生きていく道を選ぶという覚悟で、島民の８割が日本人になることに賛成したと言われている。そういう意味でも、色丹島には親日の人が多く、今でも日本人とともに生きることにあまり抵抗がないという人が多くいる。

・色丹島にはごみ処理施設がない。斜古丹に移動するときに、山の中腹に自然発火しているところがあったが、そこがごみの最終処分場になっている。潮風の影響で塩分を含んだごみは、高燃度で焼却しないとダイオキシンを発生させてしまうため、焼却炉を早く造らなければならないが、まだ建設されていない。建設計画はあり、場所も決まっているものの、なかなか動き出さない。

【自然発火の様子】

○解団式

副団長、国会議員４名がそれぞれ感想を述べたあと、団長と北対協の古矢専務理事が挨拶し、解団となった。

１２：００	根室港帰港、事務手続、下船
１２：５０	解散（バスで千島会館に移動後、解散）
１２：５０～１３：２０	代表者記者会見

○代表者記者会見

千島会館で代表者記者会見を行った。訪問団からは、大野団長、濵松副団長、末松衆議院議員、稲津衆議院議員、石橋参議院議員、浜口参議院議員、文化交流担当の廣澤氏と光井氏の計８名が出席した。はじめに、北対協の石川上席専門官より行程実績の説明があり、その後出席者がそれぞれ感想を述べた。

【代表者記者会見の様子】

＜大野団長の感想＞

・今回、雨のため国後島は車の中からの墓参になったが、色丹島では、斜古丹の墓地へ直接お墓参りすることができた。斜古丹の墓地は非常にきれいに草が刈られており、日本人墓地を大切にしてくれているという印象を持った。

・北方四島訪問事業に参加するのは今回で６回目だが、訪問するたびに社会資本整備が進んでおり、領土問題解決の困難さを実感している。一日も早く問題を解決してほしいと改めて感じた訪問事業であった。

＜濵松副団長の感想＞
・今回は２回目の訪問となるが、国後島は、建物の外装が修理されたり、アパートが新築されたり、スポーツ関係の新しい施設ができたりしており、６年前の１回目の訪問とだいぶん状況が違っていた。
・島にロシア人が住んでいる以上、当然ロシア化は進むと思うが、返還運動をしている立場としては、これからもしっかりと島の返還を訴えていかなくてはいけないと実感した。

＜廣澤氏＞
・獅子舞は、本来ならお囃子を含め十数名で行うものだが、今回は３名ということで、最初は本当にできるだろうかという戸惑いがあったが、演目の説明をするときに会場を見渡すと、島民がたくさん来ていてほっとした。
・演目が終わった後、一緒に写真を撮りましょうと声がけしたところ、たくさんの島民が順番に並んでくれた。
・無事に住民交流会を終えることができ、獅子舞保存会を代表してよかったなと思うと同時に、島民に日本文化を知ってもらうよい機会になったのなら嬉しく思う。

＜光井氏＞
・国後島では６０名の参加者を想定して準備を進めていたが、ガラス万華鏡作りは、通常１回あたり１０名前後で行っている。６０名という人数に対応できるか不安だったが、団員の皆さんに協力していただいて、無事行うことができた。
・参加した島民は、ガラスを見たときにきれいだなと目を輝かしたり、出来上がった万華鏡を覗くときにすごく楽しそうだったり、そういう姿を目にしてすごく嬉しく思った。また、ホームビジットで訪問した家庭が、ガラス万華鏡作りに参加された方の家で、家の中にちゃんと万華鏡が飾ってあったことも嬉しかった。

＜質疑応答＞
◇質問：（大野団長に対し）前回は何年前に島を訪問したのか。インフラ整備のことを皆さん言われていたが、前回の訪問とどんなふうに変わっていたのか。
◆大野団長：直近では６年前に国後島、色丹島を訪れている。前回の訪問と比べると、国後島は道路がどんどん整備されていること、友好の家を中心にしたエリアが発展し、地震にあってそのままにされていた建物が立派になっていたこと、ロシア正教会が立派になっていたこと、単なる草原だったところに子どもが遊べる大きな公園を造り、雑草でいっぱいだった歩道をきれいにしたことなどは、よくここまでやったなという感じを受けた。また、前回は姿も形もなかったスポーツ健康施設ができていたことに非常にびっくりした。色丹島には立派な病院が建てられていて、稼働の仕方には問題があるようだが、ああいう施設を見ると、島そのものに社会資本整備をしているなと思った。

【色丹島に建てられた病院】

◇質問：最近ロシアの外務次官が日本のモスクワ大使を呼び出し、ビザなし交流に問題があると抗議したり、前回の空路墓参で、メディア関係者が違法な取材をしたという理由で現地当局から取り調べを受けたりと、ロシア全体がビザなし交流に対して見直しというか、厳しい態度を示す傾向があるように思うが、今回行ってみてそういう感触はあったか。
◆大野団長：私は２０００年に初めて島に渡ったが、そのときは島民と我々の間で、領土問題について意見交換ができた。しかし途中から様子が変わり、我々の方もビザなし交流の在り方について、北対協に検討会を設け見直しを行った。私もそのとき専門委員会の委員として意見を述べているが、そのとき思ったのは、ビザなし交流を続けることが重要であるということ。交流のあり方として意見交換がなくなっても、交流そのものを続けていくことで、日本の領土である四島で、当たり前のことができるようになっていけばよい。やめると最後なので、交流を続けていくことの重要性を訴えていきたい。